

4. 3 電子出版の実際 ―電子出版関連の現状と将来―

凸版印刷株式会社技術戦略推進部長

西岡 貞一

凸版印刷（株）の企業活動を通じて、印刷産業でのデジタル化・情報化の動きを俯瞰し、情報コミュニケーション産業への変革がどのように行われているのかを「電子出版関連の現状と将来」という視点で捉えることを目的とする。また研究現場の見学を通じて、新技術の動向や新たな実験的取り組みについても議論する。

I. 電子出版の現状と動向

1. パッケージ系電子出版の最新動向

(1) 出版印刷物の電子化

各分野でのCD-ROM化、DVD化

事辞典、各種白書、パソコン雑誌付録など

(2) 商業印刷物の電子化

通販カタログのCD-ROM化、DVD化

(3) マニュアル類の電子化

コンピュータ周辺機器マニュアルのCD-ROM化、DVD化

アニュアルレポートのCD-ROM化、DVD化

2. ネットワーク系電子出版の最新動向

(1) 出版物のインターネット配信サービス

デジタルコンテンツ配信サービスビジネス

○凸版印刷が運営する、出版コンテンツの有料配信サービス「Bitway-Books」

(2) 商業印刷物のインターネット配信による通販ビジネスの台頭

○インターネットによる通販カタログと物流と決済サービスの代行

(3) インターネットによる各種情報サービス

○地図をベースにした各種情報サービス「マピオン (MAPION)」

○コンテンツホルダーとインターネットサービスプロバイダーを仲介する情報流通代行サービス「Bitway」

○大学・企業・学会・地方自治体の各ホームページ情報サービスサポート

3. パッケージ系とネットワーク系の融合

(1) メディアミックス

○書籍・雑誌とCD-ROM、インターネットの組み合わせ

II. インターネット関連の最近の動向

1. インターネット情報検索サービスの向上

2. インターネット・ホスティングサービス

- イメージサーバーレンタルスペースサービス

- マーケティングやEC関連などのビジネス機能を提供するサービス

3. インターネット通販の高まり

- 書籍販売におけるインターネットの利用（米国での「アマゾン・ドット・コム」）

- 大手書店、大手書籍流通、大手物流が展開する各種「インターネット書籍販売サービス」

- セキュリティの確保と決済機能

- 著者と読者の距離の縮まり（著者、出版社、取次店、書店、読者の関係の最適化）

III. デジタルアーカイブに関する最近の動向

1. 画像デジタルデータのアーカイブ化の動き

- 印刷会社自体が巨大なデータベース産業に変化しつつある

- 写真・文字・レイアウト情報の他、音声や動画などマルチメディアデータの取り扱い

- 印刷物への利用はもちろんのこと、インターネットへのデータ再活用ニーズの高まり（ワンソース・マルチユースの実現）

2. デジタル美術館・博物館

- 超高精細デジタルデータのアーカイブと館内常時検索閲覧可能なシステムの開発（国立西洋美術館などに納入）

IV. バーチャル・リアリティ・ラボラトリーの見学

視聴から体験する時代へ、マルチメディアの可能性をさらに追求したバーチャルリアリティの見学

V. デジタルアーカイブラボの見学

デジタル技術をベースにグラフィックアート表現の可能性を実験的に切り開くデジタルアーカイブの見学

以上